

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2020 No.14

JACET 関東支部ニューズレター第 14 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 藤尾美佐 (東洋大学)

春爛漫の季節となって参りましたが、日本社会そして世界情勢は、ここ数ヶ月、未曾有の危機に直面しております。

先生方におかれましては、3月に予定されていた研究会の中止が相次ぎ、ご心配とともに落胆もあるやと存じますが、同時に、世界的に新型コロナウイルス感染症に関連する hate crime が報道される中、各国のニュースを正確に把握し、自分自身で判断していける次世代を育成するための、英語教育の新たな、そしてさらなる役割を考える時期でもあると感じています。

(この原稿は3月5日に執筆し、25日に必要な箇所のみ修正を加えました。刻々と変化していく状況の中、発行の際に、もし状況に合わない記述がありましたら、どうぞご容赦くださいませ。)

さて、私が支部長に就任してから約1年が経ちました。不肖ながらも無事に1年を務めることができたのは、ひとえに、運営委員の先生方を始め、

会員の皆様のお力添えのおかげです。改めてお礼申し上げるとともに、この機会に、1年を振り返りたいと思います。

前回のニューズレターでも記しましたが、関東支部の活動には大きく4つの柱があります。1) 関東支部大会の開催、2) 支部紀要 (JACET-KANTO Journal) の発行、3) 関東支部講演会 (および JACET 関東支部・東洋大学共催企画) の実施、4) ニューズレターの発行です。

本年度、この上記3つにおいて、大きな改革に取り組みましたことを、ここにご報告したいと思います。

1) 関東支部大会について

すでにお知らせしておりますように、次回第13回関東支部大会は、7月5日(日)に、帝京科学大学(千住キャンパス)にて、「英語教育と地域連携: 地域から発信するグローバル・メッセージ」というテーマで開催されます。(海外から基調講

目次

・ 巻頭言 支部長 藤尾美佐.....	- 1 -	・ 支部研究会活動報告 (2019年度)	- 8 -
・ 第2回支部総会報告 支部事務局幹事 奥切恵.....	- 3 -	・ 支部大会運営委員会からのお知らせ 支部大会運営委員長 新井巧磨.....	- 15 -
・ 支部講演会報告 支部講演会委員長 山本成代.....	- 4 -	・ 支部紀要編集委員会からのお知らせ 支部紀要編集委員長 鈴木彩子.....	- 15 -
・ JACET 関東支部・東洋大学共催企画報告 青木理香・中竹真依子.....	- 5 -	・ 事務局だより 支部事務局幹事 奥切恵.....	- 16 -

演者をお招きする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で不可能な状況となり、現在、ビデオないしはオンラインでの講演を計画中です。ただし今後の状況によっては、支部大会の延期も視野に入れざるを得なくなるかもしれません。最終的な決定は、ゴールデンウィーク前後にお知らせいたします。ご理解のほどお願い申し上げます。）

支部大会においては、今回より新しい企画として、SIGの発表や情報発信のセクションを立ち上げました。これにより、出席者の皆様にもSIGについての理解や興味を深めていただき、さらなる研究の活性化につながればと考えております。

また、会員交流の場としての懇親会も、ランチタイムに移動させ、少しでも多くの方にご参加いただけるよう企画しております。（ただし懇親会も、今後の状況により流動的になる可能性もあります。）

2) 支部紀要 (JACET-KANTO Journal) の発行について

もうすぐ会員の皆様のお手元に届く『JACET 関東支部紀要』第7号の中でもお知らせしておりますが、来年度より、紀要をWeb化することになりました。この件については、支部運営会議でも繰り返し議論され、支部総会（2019年11月9日実施）でも、すでにWeb化の方向性をご承認いただいております。

今回Web化に踏み切ったのは、もちろんコスト削減という面もありますが、Web化により締め切りを1ヶ月ほど遅らせることが可能になり、関東支部大会でのご発表を論文として執筆いただける十分な時間を取るためです。（詳細は紀要第7号をご覧ください。）

また、投稿論文へのコメントもさらに充実させる仕組みを作り、投稿したことそのものに価値があったと思っただけの紀要にしたいと考えています。もちろん、論文だけでなく、実践報告

も奮って応募頂きたいと思います。

3) 関東支部講演会およびJACET 関東支部・東洋大学共催企画

支部運営会議はこれまでほぼ毎月実施されており、その後に必ず研究会を開催しております。この研究会は運営上、関東支部講演会とJACET 関東支部・東洋大学共催企画の2つから成りたっています。前者は、幅広い分野での講演を企画しており、後者は、講演会だけでなく、研究手法に関するワークショップなど、幅広い企画を視野に入れております。1月に実施した「統計の基礎の基礎」というワークショップも好評を博しまして、来年度も同様の企画を考えております。会員の皆様からもリクエストがありましたら、是非、事務局までご連絡くださいませ。

（4月11日(土)の関東支部講演会は中止と致しました。この講演予定であった、中谷安男先生(法政大学)には、6月13日(土)の関東支部・東洋大学共催企画でご講演いただく予定ですが、先の読めない状況の中、支部のホームページなど、随時ご確認いただければ幸いです。）

また、所属大学での業務が否応なく増える中、運営委員(支部研究企画委員)の仕事量を見直し、働き方改革を進めることは、私の1つの大きな目標でもあり、今年度からWebによる運営会議も始めました。今後も合理化できるところは合理化して参りたいと思いますが、同時に、運営委員は、支部の活動を企画し進めていく、やりがいのある仕事であると思います。支部研究企画委員へのご興味などありましたら、お気軽に事務局までご連絡いただければ幸いです。

そして、支部活動の最後の柱は、このニューズレターです。半年に一度、このニューズレターを通じて、支部活動をご報告しております。改めてニューズレター編集委員の先生方に衷心よりお礼申し上げますとともに、会員の皆様方の、支部へのより積極的なご参加をお願い申し上げます。

第2回支部総会報告

支部事務局幹事

奥切恵 (聖心女子大学)

2019年11月9日(土)に、東洋大学白山キャンパス1号館4F1407教室において、2019年度第2回支部総会が開催されました。支部総会では、2018年度事業報告・会計報告、2020年度事業計画、予算案、支部人事の報告と承認が行われました。その後、新型コロナウイルス感染症による影響のため、活動内容に修正が生じたため、以下に修正後の内容を記載いたします(予算案は省略)。

■2020年度事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催(1号事業)

(1) 支部大会の開催

名称：2020年度関東支部大会

日時：2020年7月5日(日)を予定

場所：帝京科学大学

【規模】約150名

(2) 支部講演会の開催

名称：JACET 関東支部講演会

日時：2020年4月11日(土)は中止(6月13日に下記、共同企画として実施)、2020年10月3日、12月12日の2回を予定

場所：東洋大学

【内容】

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

【規模】毎回約50人

(3) 支部共催講演会の開催

名称：JACET 関東支部・東洋大学共催企画

日時：2020年6月13日、11月21日、2021年3月13日の3回を予定

場所：東洋大学

【内容】

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会やワークショップを定期的実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

【規模】毎回約50名

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行(2号事業)

(1) 『JACET 関東支部紀要』第8号

(英語名：JACET-KANTO Journal)

日時：2021年3月31日

【規模】JACET 関東支部 HP に PDF として掲載

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」

第15・16号

日時：2020年9月30日、2021年3月31日の2回を予定

【規模】JACET 関東支部 HP に PDF として掲載

III. その他(5号事業)

(1) 支部総会の開催

名称：2020年度第1回、第2回関東支部総会

① 日時：2020年7月5日

場所：帝京科学大学

② 日時：2020年11月21日

場所：東洋大学

目的：①2019年度の支部の事業報告、会計報告
2020年度の支部の事業計画

②2021年度の支部の事業計画、予算案
及び人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日時：2020年4月11日、5月9日、6月13日、
9月8日～10日のうち1日、10月3日、
11月21日、12月12日 2019年1月9
日、3月13日

場所：東洋大学（オンラインの場合もあり）

■2020年度支部人事■

(1) 新規研究企画委員

馬場千秋（任期：2020年4月～2021年3月）

支部講演会報告

支部講演会委員長

山本成代（創価女子短期大学）

2019年度下半期活動報告

2019年度下半期は、10月12日に開催予定であった支部講演会は天候の影響で延期となり、12月14日に開催した。千葉商科大学の酒井志延先生をお招きして、「外国語教育が揺らす学習者の価値観---グローバル化社会と機械翻訳の時代に何を教えるのか」というタイトルでご講演していただいた。英語授業と機械翻訳の接点について関心を持っている先生方も多く、延期された日程にもかかわらず多くの参加者があった。発表詳細については、後述の支部講演会報告・概要を参照されたい。

2019年度下半期支部講演会 発表報告・概要

日時：2019年12月14日（土）16:00-17:20

場所：東洋大学白山キャンパス6号館2F

6203教室

講師：酒井志延先生（千葉商科大学商経学部教授）

日本語題目：外国語教育が揺らす学習者の価値観
グローバル化社会と機械翻訳の時代に何を教えるのか

英語題目：Foreign language education that shakes learners' values—What do we teach in the era of globalization and machine translation?

【報告】台風により延期になった回の待望の再開催であったためか、多くの参加者（25名）が駆け付けた。ご発表では、グローバル化時代における外国語教育の役割について触れると共に、発表者が本務校で実践されている異文化理解の授業や、機械翻訳を用いた複言語主義教育の計画など多くの実践例をご紹介下さった。そのため、非常に分かりやすく、発表後にも熱心な議論が継続した。発表概要は以下に記載する。

【発表概要】外国語教育や異文化との出会いは個人の意識を揺らします。例えば国際化では、伝統や習慣を残しながら、異文化を持つ人・事物・制度を受け入れますが、基準はあくまで日本になります。一方、グローバル化では、自社会の多くの考えや制度を世界や標準に合わせ、世界の仲間となる意識を含みます。以前は前者の方がよく使われましたが、最近は逆です。このように、社会の進歩と共に個人の価値観は揺らぎます。グローバル化社会のための教育というと、英語教育の充実を思い起こす人が多いでしょう。確かに英語教育は重要ですが、必要なことは英語教育だけではありません。本発表では、その必要なものを充足し得る複言語主義教育と機械翻訳を使った教育について講演・議論しました。

2020年度上半期活動計画

2020年4月11日（土）に2020年度第1回支部講演会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症等の影響で、日程を6月に移し、開催担当を支部講演会・東洋大学共催として、以下のように開催します。

日時：6月13日（土）16:00～17:20

場所：東洋大学（1号館 3F 1303 教室予定）
講演者：中谷安男先生（法政大学教授）
題目：オックスフォード大学から学ぶ英国式リーダーシップ育成：持続可能な開発目標（SDGs）への対処とライティング指導

日程変更となりますが、皆さまのご来場をお待ちしております。

JACET 関東支部・東洋大学共催企画報告

青木理香（東洋大学）

中竹真依子（青山学院大学）

■JACET 関東支部・東洋大学共催企画（9月）■

日時：2019年9月14日（土）16:00-17:30

場所：東洋大学1号館 4F1406 教室

題目：Creative Commons & Copyrights for the Creative Minded Teacher

講師：Rab Paterson 先生（東洋大学国際教育センターBESTプログラム 主任講師）

マルチメディアの使用は、プレゼンテーションや授業のスパイスとなり、人間の興味を惹きつける効果があることが知られている。本講演では、教室内における効果的なスライドの作成方法やマルチメディアを利用した教育について、先生ご自身が授業等で使われている動画やスライドを取り入れながら紹介していただいた。

まず、パブリックドメイン、6段階のクリエイティブコモンズ、そしてコピーライトについてご説明いただいた後、スライドのタイトルページの良い例と悪い例を実際に示しながら、効果的なデザインについてご指導いただいた。「文字よりも画像や映像の方が人間の記憶に定着しやすい」ということを考えると、使用する画像、文字、配置などのデザインは、授業やプレゼンテーションの第一印象を決める重要な要素であることを語られ

た。

その後、香港やシンガポールの小学校におけるマルチメディア教育実施例をご紹介いただいた。これに対し、日本ではマルチメディア教育が進んでいないという厳しい状況（OECD加盟国の中でICTテストスコアが最下位であること、学生がICTをプロジェクトやクラス課題で使っている割合が最下位であることなど）も明らかにされた。日本人にICTを使う能力がないわけではないにもかかわらず、知識の詰め込みなどに重きが置かれ、今後必要とされるクリエイティブな活動が軽視されている教育現場の現状を訴えられた。

次に、実際に授業で使用するためのスライドを作る際のポイントをご教示いただいた。スライドに情報を入れすぎると、学生はスライドを読むことに終始してしまい教員の話の聞かなくなってしまうため、スライドは一瞬で誰もが理解できる、テキストの少ない（キーフレーズを含む）ものにし、詳細情報は教員の口から説明するという形が効果的であるとのことだった。その際、テキストにあった画像や動画を一緒に提示することができ、さらに記憶率が上がるということもご説明いただいた。また、人間はプレゼンテーションが始まって9分後にアテンション率が下がることが知られているため、9分間ごとに **multimedia modality** を変えることで学生の集中力を保つことができるというアドバイスもいただいた。

さらに、教育者だからといって著作権を気にしなくていいわけではないということもご説明いただいた。アメリカ合衆国の法律では、**purpose and character of your use, nature of the copyrighted work, the amount and substantiality of the portion taken, the effect of the use on the market** の4つの観点から判断されるというが、日本でも、作者やリンクを小さい文字で載せるだけではなく、スライドの最後に詳細なクレジットを載せることが必要であることが示唆された。最後に、パブリックドメインの画

像の検索方法を「CC search」を用いながらご指導いただき、マルチメディアを使用した教育について”Fail forward!”という素敵なアドバイスをくださった。

(文責 青木理香)

■JACET 関東支部・東洋大学共催企画(11月)■

日時：2019年11月9日(土) 16:00-17:20

場所：東洋大学白山キャンパス1号館4F

1407教室

題目：「主体的・対話的で深い学び」を小・中・高(・大)でどのようにつなげていくか？
—つなげるツールとつなげる教師—

講師：久村研(田園調布学園大学名誉教授)、
栗原文子(中央大学)

ご講演は、日本の英語教育において、小・中・高(・大)を通じて、自律的な学習能力と異文化間能力を育成するべきであるというテーマで、そのツールとしてのJ-POSTLの可能性をご紹介いただいた。

まず、文部科学省が示している「主体的・対話的で深い学び」という理念だけではどのような国民を育成するのかというコンセプトが伝わりにくいこと、そして英語以外の外国語についての指針が明確でないことなどを挙げられた。その後、文科省の文書にある記述に基づいて「主体的学び」、「対話的学び」、「深い学び」のそれぞれの定義、キーコンセプト、および構成要素などをご説明いただいた。まとめると、以下の通りである。

- 「主体的学び」における「主体的」という概念は、「生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとする態度」と定義することができ、すなわちCEFRにおける生涯学習を指すと考えられる。生涯学習で重要な「学べるようになること(learning to learn)」は、自律的な学習(autonomous learning)を意味し、

これは体系的に育成すべき能力である。この能力の構成要素にはリフレクションに基づいて結論を引き出す力、学習方略の開発能力、学習に対する自己責任などが必要になってくる。因みに、自律的学習は自立学習

(independent learning)の範疇における高度な学習能力とされる。

- 「対話的学び」は、「協同」という概念とともに用いられているが、CEFRにおけるインタラクションにあたると考えられる。この学びは行動志向の学習観につながり、言語学習者とは言語使用者であり、言語を使って何ができるかが鍵となる。教育方法の構成要素としては、コミュニケーションな言語活動、コミュニケーション方略の育成、協同学習が重要となる。

- 「深い学び」は、CEFRの「一般的能力(general competences)」に該当する。ここで鍵となるのが「外国語によるコミュニケーションによる見方や考え方」であり、この構成要素としては社会文化的能力、異文化への気づきなどが挙げられる。

このような能力の育成をつなげるツールとして、J-POSTLについてご説明いただいた。

J-POSTLはEPOSTLを翻案化したもので、180(EPOSTLでは195)の自己評価記述文によって英語教師の授業力を透明化している。CEFRの言語教育観・学習観(行動志向アプローチ、生涯学習、一般的能力)を踏襲しており、現在まで、30以上の大学の教職課程で利用されており、中等教育における実践事例集も印刷中であるという。

その事例の中から授業改善の授業実践を3例ご紹介いただいた。例えば、私立女子高校音楽科におけるマンダラート・宿題票・自主学習ノートなどを利用した「主体的学び」への試み、県立進学

校での読解から「対話的な学び」への転回、さらに県立進路多様校におけるプロジェクト学習導入による「深い学び」の取り組みなどの活用事例を具体的に示していただいた。そして、メリットとして学習者中心の言語教育について体系的に理解できる点、理論と実践を結ぶ力が育つ点、授業改善課題や改善のためのヒントが得られる点、クリティカルな省察力が身に付く点、教師の専門性が向上する点などを挙げられた。

また、中学校・高校の教員に、J-POSTL の記述文が妥当かどうかアンケートをとったところ、「教授法」や「評価」などに比べて「異文化」「自立学習」の分野への意識は低かった。また、「自立学習」を除いて教員歴が長いほど評価が上がる傾向が見られたという。このことから、4技能中心の授業と学習者の自立を促す授業との意識の差を指摘された。

その後、J-POSTL エレメンタリー（小学校教員用）の開発についてもご紹介いただいた。J-POSTL エレメンタリーでは、180 の記述文が167 に編集され、キャリア段階別に分類されている。J-POSTL と比較すると、J-POSTL で「中堅」に分類されている記述文がエレメンタリーでは「初任」に分類されており、中・高と小学校で重要だと思われる項目が異なるため、中・高の教育をそのまま小学校に持ってくることはできないことを指摘された（特に、ICT の活用、学習目標、異文化、個に対する配慮《＝見取り》は中・高教育よりも小学校教育においてより重視されているという）。

続いて、英語教師の意識を変えることへの期待について述べられた。従来の「グローバル人材」を育てる教育、すなわちスキルに重きを置いた教育ではなく、自立や異文化を意識させる教育に変えていくことで、「地球市民（＝世界の平和と安全に貢献する市民）」を育てられるのではないかと語られた。「地球市民教育」のためには、多様性、世界情勢への理解、地域社会への参加、持続

可能な世界のための他者との協同、自らの行動への責任などの構成要素が重要となってくるが、このような能力を伸ばす教育を通して、上・中位レベル層（文科省目標値：中学英検 3 級・高校準 2 級以上）が増えることを前述の授業実践事例を基に示唆された。そして、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、学習者自らが授業計画・教材選び・評価に参加し、リフレクションの方法を学び、自分の学習に責任を持つ、つまり、自律的学習者を育てるような教育をすることが地球市民育成につながる、と指摘された。

最後に、EU と日本における言語教育の機軸の違いについて言及された。EU では、言語教育の機軸は「人的往来の促進 (mobility)」であり、その理念は「複言語・複文化主義」で、目標は「民主的市民」であるのに対し、日本における機軸は「国際競争力」であり、理念として「英語が使える日本人」、目標は「グローバル人材」という大きな違いがある。今のところ日本の機軸をいきなり変えることはできないが、国際競争力の選択肢として「金融市場・ビジネスの高度化・イノベーションなど」から「教育・労働市場の効率性」に力点を移し、「自律的学習能力・異文化間能力」という理念を掲げ、「グローバル市民」を育てることを目標にすることで、日本人の能力を伸ばすことができると示唆された。この教育の 5 大価値として「参加・協同・省察・責任・(多様性と人権の) 尊重」を挙げられていた。

(文責 青木理香)

■JACET 関東支部・東洋大学共催企画 (1 月) ■

日時：2020 年 1 月 11 日 (土) 16:00-17:20

場所：東洋大学 3 号館 3F3301 教室

題目：統計の基礎の基礎 ― データの読み方―

講師：山口高領 (秀明大学 専任講師)

本ワークショップでは、有意差と効果量、標準

偏差、標準誤差、信頼区間、正規分布といった統計の基本的な諸概念について、身近な具体例を交えながらご説明いただいた。また、列の比率検定について、SPSS とエクセルを使った実例をご紹介いただいた。ワークショップ全体を通して、量的分析において尺度の妥当性がいかに重要であるかを学ぶことができた。本ワークショップのフォローアップとして、以下の本をご推薦いただいた。

- ・D. ロウントリー (2001) 『新・涙なしの統計学』新世社
- ・水本篤・竹内理 (2011) 「効果量と検定力分析 入門—統計的検定を正しく使うために—」『より良い外国語教育研究のための方法』(pp. 47-73) 外国語教育メディア学会(LET) 関西支部メソドロジー研究部会 2010 年度報告論集
- ・平井明代 (2017) 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版』東京図書
- ・平井明代 (2018) 『教育・心理・言語系研究のためのデータ分析 研究の幅を広げる統計手法』東京図書

ワークショップ後には、列の比率検定とカイ二乗検定の違い、SPSS とエクセル統計の違いについてなど、活発な質疑応答が行われた。

(文責 中竹真依子)

支部研究会活動報告 (2019 年度)

各研究会代表

■SLA (関東) 研究会■

代表：佐野富士子

副代表：原田淳・夏莉佐宜

1. JACET SLA 研究会の研究活動目的

第二言語習得研究から得られた知見を英語教

育の場にどのように活かすか、を主な研究課題として研究会活動を行っています。研究領域の最新の動向を把握するため、実証研究論文や最新の著作を読んで議論する輪読を行っています。最近では「指導による第二言語習得」(instructed second language acquisition: ISLA)を探求し、Loewen & Sato (2017)を読み込み、関連する論文も合わせて読み、ISLA の深い理解を目指しています。

2. 活動内容

(1) 公開研究会

ISLA に関するトピックを取り上げ、担当者が論文や著作の 1 つの章のまとめを発表し、参加者全員で日本の英語教育の場への取入れについて議論しています。

① 2019 年度第 1 回公開研究会

日時：4 月 6 日 (日) 10:30~12:30

内容：語用能力の発達について、生徒へのフィードバックについて

会場：常葉大学

② 2019 年度第 2 回公開研究会

日時：9 月 16 日 (祝) 10:30~16:30

内容：Loewen & Sato (2017) から、processing instruction, grammar acquisition, L2 pragmatics, L2 fluency development, pronunciation acquisition, vocabulary acquisition

会場：獨協中学高等学校

③ 2020 年度第 3 回研究会 (web 会議)

日時：3 月 20 日 (祝) 10:30~12:30

内容：Loewen & Sato (2017) から、written language learning, study abroad and SLA, computer-assisted SLA, motivation in the L2 classroom, L2 instructor

(2) 研究活動についての発表

- ① 2019 年 8 月 JACET 国際大会にて、会の活動を多くの人に知っていただくため、SLA の

研究領域を視覚的に示すポスター発表を行いました。

② 2019年11月 JAAL-in-JACET にてポスター発表しました。中間言語語用論を深く掘り下げ、指導項目として何から始めたらよいのか、どのような指導方法が効果的であるかについて、最近の動向を示し、教室における指導への示唆を示しました。

(3) 公開英語教育研修会

2019年10月6日(土)に常葉大学外国語学部言語文化研究会の共催で、英語教育研修会を行いました。主な参加者は中学高校の英語教師、英語教師を目指す人たちです。テーマは英語の即興性と流暢性をテーマに、明示的指導と暗示的指導の両方をどう行ったらよいのか、具体的にどのような言語活動を行ったらよいのか、についてワークショップ形式で実施しました。

(4) 研究会の刊行物

『第二言語習得研究と英語科教育法』(JACET SLA 研究会編著)(開拓社)の2刷を出しました。

3. 今後の活動予定

2020年度 JACET 関東支部大会にて、SIG 発表の枠組みで公開研究会(読書会)を行います。担当が前述の Loewen & Sato (2017) の担当箇所を発表し、ディスカッションを行います。

■テスト研究会■

代表：中村優治

1. 研究テーマ

昨年度に続き最新の理論を反映しつつ下記1)と2)を進め、加えて、3)、4)、5)を新規プロジェクトとして開始した。

1) 日本の英語教育のための Assessment literacy の一覧表の実践に基づく精緻化

これまで理論的・実践的検証をもとに作成を進めてきた Assessment Literacy の一覧表 (Can-Do リスト) について、より具体的かつ多面的な実践研究を通じて問題点を整理・解決しつつ、更なる精緻化を目指した。

2) スキル統合的テストの開発

過年度より引き続き、スキル統合的能力テスト(特にスピーキングおよびライティングをアウトプットとするもの)の評価項目や基準(ルーブリック)の構築、代表的な既存のテストの受験者ストラテジーの検証などを基に、テスト作成方法について様々な提案をした。

3) 上記1)と2)の成果の ILF、ELF への適用に関する模索的実験

4) 小学校英語の評価のためのニーズ調査・分析

5) 教室内評価に関する日本人英語教師の信条 (Belief)、自己効力感 (Self-efficacy)、実践 (practice) の調査・分析

2. 活動内容

1) 上記目標・プロジェクトの参考とするため、下記書籍の読書会を毎月行い、各章について担当者が発表した後、ディスカッションを行った。

●Tsagari, D. & Banerjee, J. (Eds.) (2016) Handbook of Second Language Assessment. DeGruyter Mouton: Berlin, Germany.

2) 評価に関するワークショップを開催し理論と実践の融合を図った。

学部及び大学院で英語科教育法を受講している学生を主たる対象として、9月13日に第12回夏期ワークショップを実施した。現行学習指導要領の目標の一つである「4技能統合の指導とその評価」をテーマに掲げ、理論と実践を組み合わせた様々な活動を行った。

3) 6件の学会発表において研究成果を共有し、議論を深めた。

上記 1)から 5)の活動に読書会から得た知見と上記ワークショップのアンケート分析結果などを加え、下記 6 件の学会発表を行った。その際、各教員が日々の授業の中でスキル統合型テストを作成できるように、実践的なテスト作成モデルを構築し参加者と共有した。

- KATE 年次大会
- PAAL 国際大会
- Asia TEFL 国際大会
- JASELE 年次大会
- JACET 国際大会
- JALT 国際大会

特に、JACET 国際大会で昨年に引き続き行った SIG ポスターセッションは、90 年代からの活動の足跡に加えて最新の研究成果をまとめてビジュアルな方法で提示することを通じて、本研究会の活動内容を多くの会員、参加者に知っていただく貴重な機会となった。

3. 今後の活動予定

1 に掲げた研究テーマの 1)から 5)をさらに発展・深化させつつ、AILA 国際大会を Web 含む 5 ～6 件の学会発表、第 13 回サマー・ワークショップ開催 (9 月) と研究会発表集第 2 号の刊行を予定している。

■ 談話行動研究会 ■

代表：土屋慶子

談話行動研究会では、談話分析、語用論を中心に様々なテーマを取り上げ、研究会を開催しています。今年度は下記の講演会を催し、3 月末には若手研究者発表会と特別講演会を予定しています。

今年度第一回目の講演会は、6 月 26 日に “Rewriting ‘Ordinary’: Linguistic Strategies of (Re)-framing and Resistance Among

Contemporary Youth” というタイトルで、Judy Kroo 氏 (Vassar College) にご講演をいただきました。エスノグラフィーとインタビューの手法により収録した、日本の大学生の日常生活での会話をデータに、「～みたいなの」や「～し」といった若者ことばの語用論的方略を用いて自らのスタンスを示すことで、若者たちがいかに既成の社会的枠組みに抗い、「ふつう」の大学生というディスコースを変容させようとしているのかを分析した大変興味深い内容でした。

3 月 21 日に早稲田大学にて行われます 2019 年度第二回談話行動研究会では、若手研究者 2 名による発表を予定しております。種市瑛 氏 (横浜市立大学 都市社会文化研究科 客員研究員) が “Silence in pedagogic contexts: a pragmatic analysis ” というタイトルで、抽冬紘和 氏 (福岡女学院大学 短期大学部 専任講師) が “Acquisition of 'communicative competence' in academic and multicultural socialization: Linguistic ethnography of a global education program” というテーマで、研究成果をご発表くださる予定です。さらに第二回研究会に引き続き、この 3 月にご退職を迎えられます、村田久美子 教授 (早稲田大学) の特別講演会を、JACET ELF SIG との共催で開催いたします。村田先生は、長い間 JACET 談話行動研究会にてご指導くださり、2016 年には JACET ELF (English as a Lingua Franca) SIG を発足、それぞれの場で国際的な研究者との学術交流の機会を創り出し、若手研究者の育成にご尽力くださっています。特別講演会では、“Discourse-Pragmatics and ELF - when the two meet: Implications for research on communication” というテーマでお話くださる予定です。

新年度も、国際的・学際的な研究会として、多彩なテーマで講演会・研究会を開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

*3月21日に開催予定であった研究会は新型コロナウイルス感染防止対策のため延期となりました。尚、日程については未定です。

■バイリンガル研究会■

代表 平井清子
副代表 河野円、鈴木広子

本研究会は現在、バイリンガリズム研究の課題の一つである認知と言語発達との関係を考察し、思考を伴う言語発達を導く英語学習のための授業設計を具体的に提案することを目的として活動している。今年「バイリンガリズムの視点から見た EAP 教育開発と授業実践」をテーマに理論研究、授業設計、事後分析などをメンバーの発表を基に隔月 1 回のペースで例会を行った。EAP というのは一般的には、英語で行われる大学・大学院の授業についていくのに必要な英語力を習得するプログラムを指すが、本研究会では、大学 1～2 年生がそれ以降の専門教育において英語の活動に従事できるようになるまでの、いわば「橋渡しプログラム」開発を目指している。

1. 理論研究

灘高等学校教諭井上志音先生をお招きし、「概念ベースの言語学習」と題したワークショップを行った（明治大学中野キャンパス 2019. 8.31）。検定教科書の内容を行いつつ一部で国際バカロレア（International Baccalaureate）教育の考え方を取り入れ、Theory of Knowledge (TOK) の手法を取り入れた概念ベースの学習の授業実践をされており、これを体得しながら、実践的に議論を進めた。

2. 学会発表

JACET 国際大会（名古屋工業大学）では、“Overview of the EAP research project”と題し

たポスターセッションを行った。その他、研究会メンバーは積極的に以下のように発表を行った。JACET 関東支部大会（東洋大学：2019.7.7）にて『EAP プログラムの設計と実践—学習者調査からのアプローチ』、JASELE 大会（弘前大学：2019.8.17）にて、『主体的で深い学びを伴う英語学習の提案—大学 1, 2 年次医学部の授業から』、JAECT 国際大会（名古屋工業大学 2019.8.28）にて、“Effects of Instructive Scaffolding in a Science EAP Program: Analyses of Students’ Writings and Pre- and Post-Learner Surveys”。

来年度はこれまで行った EAP アンケートのまとめを行う。詳細は研究会ウェブを照会されたい。
<http://www.jacet-bilingualism.jp/jp/>

■学習者要因研究会■

代表：林千代
副代表：吉原令子・岩本典子

1. 研究テーマ

「JACET 学習者要因研究会」では、第二言語・外国語学習における様々な「学習者要因」や「個人差」(individual differences)に焦点を当て、研究活動を行っている。特に、学習者の認知・学習スタイル、言語学習ストラテジー、モチベーション、ビリーフなどについて調査・研究を行い、学習者をより多面的に理解し、より効果的な授業及び指導法を提案することを目指している。

2. 活動内容

(月例会開催場所は主に東洋大学白山キャンパス)

2019 年度は、6 回月例会を開催し、17 名が様々なテーマで研究発表を行った。JACET 国際大会では、ポスタープレゼンテーションに参加し、3 月には Web Journal を刊行した。詳細（月例会の日程、発表者、発表タイトルなど）は以下のとおりである。

(1) 5月1日

- ① Reiko Yoshihara (Nihon University), Ayaka Kurata (Daito Bunka University), Ami Yamauchi (Daito Bunka University): “Reflective practices: Japanese novice EFL university instructors’ narratives with respect to communicative language teaching”
- ② Takehiko Ito (Toyo University): “Willingness to communicate: The influence of trust and relational mobility”

(2) 6月15日

- ① Sarah Holland & Misako Kawasaki (Toyo U.): “Think about learner development and what it means in the classroom”
- ② Mike Hood (Nihon U.): “Three stories: agency, and identity in higher education”

(3) 10月15日

- ① David Kennedy (Nihon U.): “Technicity and the Making of Worlds: The Relevance of Bernard Stiegler to Language Education”
- ② Joff Bradley (Teikyo U.): “Why Deleuze? How can philosophical nonsense makes sense of the mess of language learning”

(4) 11月16日

- ① Mutsumi Ogawa (Nihon U.): “Effects of explicit grammar instruction on the count-mass distinction in English”
- ② Akiko Kiyota (Tokyo Keizai U.): “Exploring the ‘collective’ increase of intrinsic motivation in two groups out of seven: A longitudinal mixed methods study”
- ③ Simon Park (Asia Univ.): “Using SNS in English Language Classrooms”

(5) 12月21日

- ① Saki Suemori (Ochanomizu Univ.): Teacher motivation and learner motivation in Japanese secondary schools: A longitudinal qualitative study”
- ② Miki Uyama (Musashino Univ.): “Strengths and Weaknesses of NESTs and NNESTs: Perceptions of Teachers in Japan”
- ③ Graham Robson (Toyo Univ.): “Ways to maximize out of class time for university students”

(6) 1月25日

- ① 仲谷都 (Toyo Eiwa Univ.) 「英語初級者のディスカッションを意味のあるものにする試み」
- ② Noriko Iwamoto (Toyo Univ.): “Engineering Students’ Possible L2 Selves and their Present and Future L2 Use”

(7) 3月31日

3月31日に Web ジャーナル、*Journal of Language Learner Development*, No.3 を刊行した。

■ 授業学研究会 ■

代表：馬場千秋
副代表：林千代

1. 研究テーマ

本研究会は、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとしている。少子化、大学全入時代に伴う大学生の学力格差が生じている大学英語教育の現状を踏まえ、学習意欲のない学生や英語を不得意とする学生への対処法とよりよい大学英語授業について探求している。2018

年度から、「大学英語教員の悩み」について、検討を始めた。2019年度は、どのような悩みを大学教員が抱えているのか、技能別、環境別に分けた上で、対応策について、検討している。

2. 活動内容

- ・2019年4月6日(土)
授業学研究大会運営について、2019年度の活動について、大学英語教員の悩みについて
- ・2019年5月11日(土)
授業学研究大会準備および打ち合わせ
- ・2019年5月25日(土)
第1回授業学研究大会を東洋大学白山キャンパスにて開催した。関東・中部・関西の3支部の授業学研究会共催により、研究大会を開催した。基調講演は、岡田伸夫先生(関西外国語大学教授)に「授業学研究の一実践例：場面・文脈を利用した文法指導」というタイトルでご講演いただいた。また、佐藤雄大先生(名古屋外国語大学教授・中部)、村上裕美先生(関西外国語大学短期大学部准教授・関西)、関東からは馬場千秋がパネラーとして、「これからの英語授業学」というタイトルでシンポジウムを行った。研究発表・実践報告は11件であった。

- ・2019年6月15日(土)
授業学研究大会反省、公開講演会企画、悩み相談の原稿執筆について
- ・2019年8月29日(木)
第58回国際大会(名古屋、2019)でのSIGポスターセッション参加
- ・2019年9月28日(土)
公開講演会について、来年度授業学研究大会企画、JAAL in JACET 学術交流集会参加について、悩み相談の原稿執筆について
- ・2019年10月19日(土)
第4回公開講演会 講演「リフレクティブ・プラクティス：リフレクションとは？」

講師：渡辺敦子先生(文教大学教授)

*言語教師認知研究会との共催

- ・2019年11月9日(土)
悩み相談の項目検討
- ・2019年11月16日(土)
JAAL in JACET 学術交流集会 ポスター内容検討、悩み相談の項目検討
- ・2019年11月30日(土)
第2回JAAL in JACET 学術交流集会ポスターセッション参加
- ・2019年12月14日(土)
悩み相談の項目検討
- ・2020年2月8日(土)
関東支部大会でのSIG発表について、公開講演会企画、悩み相談の項目検討

3. 今後の活動予定

2020年度は、英語教員の悩み相談に関する著書の執筆活動に入る。公開研究会は、年1~2回実施し、講演および意見交換会を行い、より良い授業を行っていくための方策を検討していく予定である。さらに、関東・中部・関西3支部による第2回授業学研究大会、授業学ジャーナル発行などを行う。

■ELF研究会■

代表: 村田 久美子

20名の設立メンバーでスタートしたELF研究会は今年度で活動4周年を迎え、今や100名を超える会員を抱えている。JACET 関東支部を中心に全国各支部に会員を持つまで発展し、これは過去4年間の積極的な活動の成果と言える。以下、同年度の研究会活動を箇条書きで紹介する。

1. ジャーナル

ELF研究会ジャーナル(電子版)第4版を2020

年3月末に発刊予定。これまでSIG主催イベントをもとにしてきたが、今後は広く投稿論文を募る予定。

2. 主催イベント

- (1) 重光 由加氏(東京工芸大学)による特別講演
Clarification requests in ELF interaction
between Japanese and Indian people (於 東京大学) (2019.10.26)

ビジネスピープルの社交的会話に関する研究成果に関して、明確化要求に焦点を当ててご発表いただいた。

- (2) 第1回 ELF 研究会国際ワークショップ
BELF communication in multilingual settings – Dialogue between academia and business communities (於 早稲田大学) (2019.11.23)

Discussant に Susanne Ehrenreich 氏(ドイツ・ドルトムント工科大学)をお迎えし、ビジネス分野から傳曉氏(大成建設(株)国際支店顧問)と宇治田寧氏((公財)鉄道総合技術研究所国際業務部次長)をお招きした。アカデミック分野では研究会員の石川友和氏(玉川大学)と Alan Thompson 氏(岐阜聖徳学園大学)が研究成果を発表した。

3. 共催イベント

- (1) 玉川大学英語教育セミナー (2019.08.23)

Will Baker 氏(英国サウサンプトン大学)をお招きし、ELF と異文化コミュニケーションに関するご講演と教育実践に関するワークショップをしていただいた。

- (2) 玉川大学小田眞幸氏特別講演 (2019.12.10)

応用言語学と言語政策をテーマとし、Donna Brinton 氏(米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校)も議論に加わった。

4. 関連イベント

上記の主催・共催イベント以外に、次の国際学会とイベントでも研究会会員が発表や運営面で活躍した。

- (1) 早稲田大学特別講演 Micaela Albl-Mikasa 氏
(スイス・チューリッヒ応用科学大学)
(2019.06.12)
- (2) 東京家政大学ファカルティ・ディベロップメント 共通語としての英語 – 実践と可能性
(2019.06.14 及び 2019.11.21)
- (3) 第12回 ELF 国際学会 (コロンビア・アンテリオキア大学) (2019.07.03-06)
- (4) 愛知大学「国際英語」教育研究会フォーラム
Contextualizing English as a Lingua Franca (ELF): Assumptions, Aspirations, and Affirmations (2019.10.19)

(文責: ELF SIG 広報担当 石川友和)

■ EAP 研究会 ■

代表: マスワナ 紗矢子

副代表: 渡寛法・山田浩

EAP 研究会は、学部・大学院レベルの研究および教育で重要となる EAP 教育に関する理論と指導実践の研究を主な目的として活動している。2019 年度は、2016 年～2017 年度の大学英語教育学会 EAP 調査研究特別委員会および2018 年度の研究会活動成果をまとめ、“*Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes in Asia and Beyond*” (Routledge Research in Language Education)の第8章 “EAP in Japan” に発表した。また、日本の EAP 教育環境に適した質保証の指標と EAP 教員コア・コンピテンシー枠組みに資する研究を前年度より継続して行った。具体的には、BALEAP の認証評価基準と教員コンピテンシーの枠組み、EAP 教員の職能開発のためのハン

ドブックを日本語に翻訳する作業を通して項目を精査し、日本への関連性の検討を開始した。特に、ハンドブック (*Continuing Professional Development Accreditation Scheme Handbook*) を参考に、EAP 教員の支援リソースのあり方について模索している。質保証および教員コンピテンシー枠組みの活用実態に関する現地聞き取り調査を行い、英国 Queen Mary University of London Language Centre、King's College London English Language Centre でそれぞれのセンター長から詳細な話を伺った。質保証指標は、各大学の独自性を担保しつつ、大学さらには国境を超えて EAP カリキュラムに共通する最小要件となり得るものであり、そして EAP 教員コア・コンピテンシー枠組みは、職能開発取組みのエビデンスとなり得るものであるべきという示唆を得ることができた。これらの研究は、JSPS 科研費 JP19H01286 (「大学英語教育の質保証指標モデルと EAP 教員コア・コンピテンシー枠組の開発」研究代表者：飯島優雅) の一部として行っている。

以上の成果を JACET 第 58 回国際大会 (2019 年 8 月 29 日、名古屋工業大学) と第 2 回 JAAL in JACET 学術交流集会 (2019 年 11 月 30 日、高千穂大学) でのポスター発表、および International Symposium on Teaching English for Academic Purposes (2020 年 1 月 12 日、キャンパスプラザ京都) での口頭発表を通して公開している。来年度も質保証指標モデルおよび EAP 教員コンピテンシー枠組み構築に向けた研究を継続する予定である。

支部大会運営委員会からのお知らせ

支部大会運営委員長
新井巧磨 (早稲田大学)

今年の関東支部大会は、7 月 5 日 (日) に、帝

京科学大学千住キャンパスにて開催されます。大会テーマは『English Education Integrated into the Community: Sending Messages from Local to Global (英語教育と地域連携：地域から発信するグローバル・メッセージ)』です。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響が心配されますが、現時点では予定通りの開催を目指して準備を進めております。万が一、延期あるいは中止となりましたら、支部大会の Web ページに情報を掲載いたしますので、ご確認をお願い致します。基調講演ならびに全体シンポジウムに関しましては、大会テーマに基づいた内容で、著名な方々にお話しをして頂けるように鋭意調整中でございます。また、今回も研究発表や実践報告、開催校企画、賛助会員である企業の方々による展示に加え、賛助会員発表もごさいます。さらに、今年から「SIG 発表」という新しい企画が始まります。JACET の各 SIG 代表者による活動内容の紹介・研究発表・輪読会など、各 SIG の趣向を凝らした発表や企画をお楽しみいただけます。

なお、今大会からはお昼休みに昼食会を開催する予定です。費用は大会参加費に含まれておりますので、大勢の方にご出席いただけましたら幸いです。支部大会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長
鈴木彩子 (玉川大学)

支部紀要編集委員会では毎年 3 月末に紀要を発行しています。現在、2019 年度『JACET 関東支部紀要・第 7 号』(JACET-KANTO Journal, Vol 7) 完成に向けて、校正作業を行っています。会員の皆さまには、4 月中にお届けする予定です。第 7 号には計 6 本の応募があり、厳正かつ公正な審査を経た論文 1 本と実践報告 1 本を掲載してい

ます。発行にあたり、全ての投稿者へ厳しくも建設的なアドバイスやコメントをお寄せ下さった査読者の先生方に多大なご協力を頂きました。この場を借りまして、心よりお礼を申し上げます。

さて、2019年度より私が編集長になり新体制での初の紀要発行になりましたが、まずは無事に発行できることに安堵しています。初めての編集長業務では、予想もしていなかった問題に多く直面することになりました。その度に、支部長を始めとする関東支部役員の先生方に相談をさせて頂き、1つ1つ解決しながら作業を進めてまいりました。これまでは読者としてしか参加していなかった紀要ですが、編集に携わることにより、多くの先生方の知恵、時間、労力の上に成り立っていることを実感しました。しかしながら、その苦労も多くの方々に紀要を手にしていただくことにより報われますので、発行を楽しみにお待ちしております。

最後に一つ重要なお知らせです。来年度の第8号から紀要発行の方法が変わります。4月にお届けする第7号の冒頭で支部長より詳しい説明がありますが、紙媒体での発行はこの第7号が最後になり、第8号よりWebでの発行に移行します。大きな変更になりますが、これにより、多くの方にとって紀要が手にしやすくなり、それが投稿論文の増加に、やがては紀要の質向上に繋がることを、紀要編集委員会では大いに期待しています。

紀要編集委員会メンバー：鈴木彩子（委員長）、今井光子（副委員長）、大野秀樹、熊澤孝昭、鈴木健太郎、武田礼子、多田豪、中竹真依子、濱田彰、Paul McBride（敬称略、50音順）

事務局だより

支部事務局幹事

奥切恵（聖心女子大学）

■JACET 関東支部・東洋大学共催企画および支部講演会の知らせ■

下記のとおり、関東支部講演会及び関東支部・東洋大学共催企画を実施いたします。多くの皆さまの参加をお待ちしております。詳細は支部HP、支部会員MLでお知らせいたします（諸事情により変更になる可能性があります）。

(1) 2020年度支部講演会の予定

・2020年度 JACET 関東支部講演会（4月）

新型コロナウイルス感染症による影響のため、中止となりますが、6月13日（土）に、JACET 関東支部・東洋大学共催企画（第1回）として、下記(2)のように実施いたします。

・2020年度 JACET 関東支部講演会（10月）

日時：2020年10月3日（土）16:00-17:20

講師：長田恵理（國學院大學）

・2020年度 JACET 関東支部講演会（12月）

日時：2020年12月12日（土）16:00-17:20

講師：浅岡千利世（獨協大学）

(2) 2020年度 JACET 関東支部・東洋大学共催企画の予定

・2020年度 JACET 関東支部・東洋大学共催企画（第1回）

日時：2020年6月13日（土）16:00-17:20

場所：東洋大学

題目：「オックスフォード大学から学ぶ英国式リーダーシップ育成：持続可能な開発目標（SDGs）への対処とライティング指導」

講師：中谷安男（法政大学）

・2020年度 JACET 関東支部・東洋大学共催
企画（第2回）
日時：2020年11月21日（土）16:00-17:20

・2020年度 JACET 関東支部・東洋大学共催
企画（第3回）
日時：2021年3月13日（土）16:00-17:20

■住所変更届提出のお願い■

支部会員の皆様に、支部大会のご案内や支部紀要を確実にお届けするために、転居の際には、JACET 本部事務局へ住所変更届けを提出してくださいませよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

***JACET-Kanto Newsletter* 第14号**

発行日：2020年3月31日

発行者：JACET 関東支部（支部長 藤尾美佐）

編集者：佐野富士子、下山幸成

斎藤早苗、長田恵理

発行所：〒112-8606

東洋大学経営学部会計ファイナンス

学科

藤尾美佐 研究室内